

日本地域福祉学会第40回大会（岩手大会）開催要項

大会テーマ

東北から拓く 地域福祉の創造

～復興と包括的支援の実践知から、人口減少社会における地域共生のあり方を問う～

大会趣旨

第40回日本地域福祉学会大会（東北大会）は、「東北から拓く 地域福祉の創造—復興と包括的支援の実践知をふまえ、人口減少社会における地域共生のあり方を問う—」を大会テーマとして開催する。学会創立40周年という節目にあたり、本大会では、これまで地域福祉の実践と研究が積み重ねてきた知見や経験をふり返りながら、人口減少の進行、生活課題の複合化、孤立の深まり等に直面する今日において、地域福祉が果たすべき役割と可能性を改めて問い合わせる。

近年、地域共生社会の実現に向けた議論では、制度や分野の縦割りを超えた「包括的支援」と、住民主体の支え合いを基盤とする地域に根差した取組が重視されている。本大会では、こうした政策的課題意識とも接続しつつ、地域福祉の実践の蓄積を手がかりに、人口減少社会において地域共生をどのように具体化していくことが求められるのかを検討する。

午前の基調鼎談では、「地域福祉の創造」を軸に、地域福祉がこれまで培ってきた実践や研究の歩みをふまえながら、人口減少社会における地域共生の課題と可能性について論点を整理する。続く午後の大会企画シンポジウムでは、地域に根差した実践や文化的営みを手がかりに、地域福祉が人びとの暮らしや命を支え、関係性を育んできた過程を改めて捉え直す。

具体的には、旧沢内村（西和賀町）における「誰も取り残さない村づくり」や「命を語り継ぐ」取り組み、るんびにい美術館（花巻市）が示す、障害の有無を超えて人の“あるがまま”に向き合う場の実践を取り上げ、地域の中で福祉の価値がどのように育まれてきたのかを考える。そのうえで、秋田県藤里町におけるひきこもり支援の実践にも触れ、人口減少や孤立の深まりといった課題に向き合う地域福祉の創造を、多面的に検討する。

2日目の地元企画では、東日本大震災後の復興支援を通じて展開してきた参加支援や居場所の創出を取り上げ、震災後15年を迎える中で、復興の経験や生活支援相談員による伴走的支援が、現在の地域福祉実践にどのようにつながっているのかを整理する。あわせて、身寄りのない人の支援や成年後見制度をめぐる権利擁護のあり方などについて、実践者の報告を通じて、人口減少社会において制度をどのように運用し、地域で支えていくのかを考える。

本大会では、研究者・実践者・行政・社協・NPO等が対話を重ね、復興の経験や日常の支援の積み重ねを共有しながら、包括的支援の進展と地域に根差した取組を通じて、人口減少社会における地域共生のあり方を、ともに問い合わせる機会としたい。

期　日： 令和8年（2026年）6月20日（土）～21日（日）

会　場： 岩手県立大学滝沢キャンパス

主　催： 日本地域福祉学会、日本地域福祉学会岩手大会実行委員会

協　力（予定）：岩手県社会福祉協議会

後　援（予定）：岩手県、盛岡市、滝沢市、盛岡市社会福祉協議会、滝沢市社会福祉協議会、花巻市社会福祉協議会、奥州市社会福祉協議会、岩手県社会福祉士会、岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会

1 スケジュール

【1日目】令和8年（2026年）6月20日（土） 会場：岩手県立大学滝沢キャンパス

9:15 10:00 11:00 12:30 13:30 16:30 16:40 17:40 18:00 20:00

受付	開会式	基調鼎談 (11:00~12:30)	昼食・ランチ サロン	大会企画 シンポジウム (13:30~16:30)	休憩	総会	休憩	情報交換会
----	-----	-----------------------	---------------	---------------------------------	----	----	----	-------

【2日目】令和8年（2026年）6月21日（日） 会場：岩手県立大学滝沢キャンパス

8:30 9:00 12:00 12:15 13:25 15:25 30 15:45

受付	自由研究発表Ⅰ (口頭・ポスター) (9:00~12:00)		昼食	自由研究発表Ⅱ (口頭・ポスター) (13:25~15:25)		閉会式
	地域福祉 優秀実践賞 授賞式・報告 (9:00~10:20)	日韓学術 交流企画 (10:30~12:15)		スペシャル・ トークライブ (12:15 ~ 13:25)	開催地企画 シンポジウム (13:25~15:25)	

2 プログラム内容

基調鼎談 6月20日（土） 11:00~12:30

テーマ 「地域福祉の創造～実践と研究の歩みをふまえて～」

本鼎談では、「地域福祉の創造」をテーマに、地域福祉がこれまで積み重ねてきた実践や研究の歩みをふまえながら、今日的課題との接点を探る。地域福祉は、制度や事業の整備のみによって形成されてきたものではなく、住民主体の支え合いや、日々の生活の中で育まれてきた関係性や価値の積み重ねによって支えられてきた。近年、孤立の深まりや生活課題の複合化、担い手不足など、地域を取り巻く状況は大きく変化している。こうした中で、地域共生社会の実現や包括的支援の構築が政策的にも重視されるようになり、改めて地域福祉のあり方が問われている。本鼎談では、こうした現代的課題に直面する今だからこそ、これまでの実践や研究の蓄積をふまえ、人びとの暮らしを支えてきた地域福祉の考え方や取組が、現在の課題にどのような示唆を与えるのかを検討する。

学会創立40周年という節目にあたる本大会では、地域福祉の歩みを単なる過去の蓄積として捉えるのではなく、それが今日までどのように受け継がれ、人口減少社会や生活課題の複合化といった新たな状況の中で、どのような創造の可能性を持ち得るのかについて、幅広い視座から議論を深める。

鼎談者 : 永田 祐 氏（同志社大学・日本地域福祉学会会長）
: 原田 正樹 氏（日本福祉大学・日本地域福祉学会前会長）
: 越智 和子 氏（社会福祉法人琴平町社会福祉協議会会长）

会場：岩手県立大学 講堂

大会企画シンポジウム 6月20日（土） 13:30～16:30

テーマ 福祉文化はいかに創られてきたか～地域福祉の実践に学ぶ～

近年、地域共生社会の実現に向けた制度整備が進む一方で、福祉文化としての意識や関係性の醸成が改めて問われている。

本シンポジウムでは、「福祉文化はいかに創られてきたのか」を問い合わせて掲げ、地域福祉の実践に内在する関係性や価値、参加のあり方に着目する。福祉文化とは、制度や事業として可視化される支援のみならず、人びとの日常の関わりの中で育まれてきた考え方や態度、他者へのまなざしの総体であり、地域福祉を支える重要な基盤である。

東北では、「支え手」「受け手」という関係を超えて、多様な人びとが関わり合いながら生きる実践が存在してきた。旧沢内村にみられるような「命を語り継ぐ」地域づくりの思想や、るんびにい美術館に象徴される、障害の有無を超えて「あるがまま」に触れ直す場の実践は、福祉が制度の外側でも文化として育まれてきたことを示している。また、秋田県藤里町におけるひきこもり支援の実践は、専門的支援と地域の関係性において、参加や役割を生み出してきた事例として位置づけられる。

本シンポジウムでは、これらの実践を通して、福祉文化がどのように形成され、地域に根づいてきたのかを多角的に検討する。

コーディネーター：中島 修 氏（文京学院大学）

コメントーター：室田 信一 氏（東京都立大学）

シンポジスト：板垣 崇志 氏（しゃかいのくすり研究所代表

・るんびにい美術館アートディレクター）

：高橋 和子 氏（NPO法人輝け「いのち」ネットワーク理事）

：菊池 まゆみ氏（社会福祉法人藤里町社会福祉協議会会长）

会場：岩手県立大学 講堂

地域福祉優秀実践賞授賞式・報告 6月21日（日） 9:00～10:20

地域福祉優秀実践賞授賞式と、受賞団体による実践報告を行う。本企画は、実践と研究の往還的関係を深めていくうえで、本学会における重要な取り組みとしても位置づけられている。

受賞団体の実践から得られる知見を共有し、今後の地域福祉実践や研究活動にどのように生かしていくことができるのかを、参加者それぞれが考える機会としたい。

会場：岩手県立大学 講堂

日韓学術交流企画 6月21日（日） 10:30～12:15

地域統合ケアのガバナンスに関する日韓共同研究会の成果報告を行う。

日本地域福祉学会と韓国地域社会福祉学会は、学術交流に関する覚書に基づき、2025年度より「日韓地域福祉研究会」を立ち上げ、日韓両国における地域福祉をめぐる比較研究を進めてきた。本年度の共同研究テーマは「地域統合ケアのガバナンス」とし、①住民参加、②連携・協働、③ICT・デジタル化の三つの研究班を設け、それぞれの視点から理論的検討および実証的調査を行ってきた。

本学術交流企画は、これまでに得られた研究成果を共有するとともに、日韓における地域統合ケアの制度的・実践的課題について相互に検討する場として位置づけるものである。

また、2026年は両学会が学術交流を開始して20周年を迎える節目の年にあたる。本企画を、日韓の地域福祉研究者が一堂に会し、これまでの研究成果を振り返るとともに、今後の共同研究の方向性を展望する機会としたい。活発かつ建設的な議論が展開されることを期待する。

報告者 : 調整中

コメンテーター : 斎藤 弥生 氏 (大阪大学)

コーディネーター : 小松 理佐子 氏 (日本福祉大学)

会場 : 岩手県立大学 講堂

開催地企画 6月21日（日） 13:25～15:25

テーマ

復興と権利擁護の実践的課題から考える地域福祉

～震災後15年を経て、人口減社会における地域共生のあり方を考える～

本シンポジウムでは、東日本大震災後の復興支援を通じて顕在化してきた地域課題や、身寄りのない人の支援、成年後見制度をはじめとする権利擁護の実践を手がかりに、地域福祉の現場が直面してきた実践的課題を共有する。復興支援の過程では、住まいの再建や生活再生にとどまらず、孤立の防止や居場所の創出、地域関係の再構築など、地域における普段の暮らしを支えるための多様な課題への対応が求められてきた。

近年、地域共生社会の議論においても、制度のはざまに置かれる人への支援や、身寄りない人への支援や成年後見制度を含む権利擁護を、地域の中でどのように支えていくかが重要な論点となっている。こうした課題に対し、地域の実践現場では、制度を運用しながらも、地域の実情に即した工夫や試行錯誤が積み重ねられてきた。

本シンポジウムでは、岩手県内を中心とした林福連携による復興支援、生活支援相談員による伴走的支援、広域的な成年後見の連携を含む権利擁護支援など、地域の普段の暮らしを支える実践として積み重ねられてきた取り組みに着目する。それぞれの実践が地域の中で果たしてきた役割を共有し、復興の経験や日常支援が現在の地域福祉の実践にどのようにつながっているのかを捉え直すことでな、今後の地域共生のあり方を考える機会としたい。

コーディネーター兼コメンテーター : 菅野 道生 氏 (淑徳大学)

シンポジスト : 菊池 亮 氏 (釜石市社会福祉協議会事務局次長)

: 小野寺 幸司 氏 (NPO法人カシオペア権利擁護支援センター所長)

: 伊藤 勉 氏 (大船渡市社会福祉協議会生活福祉課課長補佐)

会場 : 岩手県立大学 講堂

3 自由研究発表の申し込み

1. 申込方法

大会専用ホームページより手続きをしていただきます。なお、「自由研究発表原稿様式」(添付様式1)及び「エントリーチェックリスト」(添付様式2)をあらかじめダウンロードし、申し込み時に必ず添付してください。

2. 申込締切

2026年3月28日（土）24時まで

※申し込みには、演題と要旨の登録が必要になります。原稿は下に説明する「自由研究発表原稿様式」に基づき作成してください。必ず所定の書式に従って提出してください。

「自由研究発表原稿様式」

1発表につき A4 縦1枚（横書き）

余白：上下 25 mm 左右 20 mm

文字数：1ページ 40字×40字

フォント：主題 12 ポイント MS ゴシック・中央揃

副題 10.5 ポイント MS ゴシック・中央揃

氏名（団体名）：10.5 ポイント MS 明朝

所属・会員番号（発表責任者氏名・会員番号）：9 ポイント MS 明朝

見出し：11 ポイント MS ゴシック

本文：10.5 ポイント MS 明朝（だ・である調で記入）

3. 記述内容

原稿は、①研究目的、②研究の方法、③倫理的配慮、④結果・考察という基本的な枠組みを示して執筆してください。なお、結果・考察について「当日資料共有」という未完成原稿は認められません。

4. 発表資格

日本地域福祉学会員（団体会員を含む）であることが条件です。なお、以下についてのルールが守れないと発表資格が無いと判断されることがありますのでご注意ください。

- ・発表者は、日本地域福祉学会理事会において会員として承認されており、2025年度分までの会費が納入されていること。なお、2026年3月の同理事会において新入会が認められた場合、4月末までに入会金、会費を支払うこと。
- ・発表の要旨に、必ず会員番号が記入されていること。共同研究報告で1名でも会員番号の記載が無ければ発表要旨の受理が出来ません。なお、入会申請中の場合は、「入会申請中」と記入してください。入会が認められ次第、会員番号をお知らせしますので、後日会員番号の記入をお願いします。

5. 発表件数

- ・筆頭発表者（ファースト・オーサー）は1演題に限ります。また、団体会員の発表は1団体につき1演題とします。
- ・1グループ（1団体）の連続発表は2つまでとします。
- ・演題の申し込みは必ず筆頭発表者（団体会員の場合は、発表責任者）が行ってください。演題の申込者と筆頭発表者が異なる場合は受理できません。
- ・筆頭発表者は、発表とは別に他の研究発表等で共同研究者として名前を連ねることは可能です。

6. 要旨確認

倫理的配慮の観点から、原稿の修正等を求めることがあります。修正を求められた場合には、修正コメントに基づいて指定した期日までに再提出をしてください。再提出がされない場合は、発表することができません。

7. 分科会

希望する分科会を下記リストの中からお選びください（第1希望から第3希望まで）。団体会員も、個人会員と同じ分科会で行いますので、同様に希望する分科会を選んでください。

各分科会の人数の調整や発表するテーマと分科会の関連などから、希望する分科会での発表ができないことがありますのであらかじめ了承ください。

<分科会リスト>

第1分科会 理論・歴史	地域福祉に関する理論・歴史
第2分科会 政策・制度	地域福祉に関する政策、諸制度、包括的支援体制等
第3分科会 推進主体	行政、社協、ボランティア・NPO、住民組織、民生委員・児童委員、共同募金等
第4分科会 対象・対象者	高齢者、障害者、児童、生活困窮者、外国人、LGBTQ等
第5分科会 地域福祉（活動）計画、運営管理	地域福祉計画、地域福祉活動計画、運営管理、評価等
第6分科会 地域福祉の諸活動・権利擁護	小地域福祉活動、見守り活動、サロン・居場所づくり活動、権利擁護、当事者組織化等
第7分科会 地域福祉の方法	コミュニティソーシャルワーク、コミュニティオーガナイジング、ファンドレイジング等
第8分科会 福祉教育・福祉文化	サービスラーニング、ボランティア学習、世代間交流、多文化共生等
第9分科会 社会福祉施設・社会福祉法人	社会福祉施設、社会福祉法人による地域における公益的な取組等
第10分科会 災害と地域福祉	災害時要配慮者支援、福祉避難所支援、災害ボランティア支援、BCP、コロナ禍への対応等

4 自由研究発表の方法

(1) 口頭発表

① 発表時間

1発表につき 25 分（発表 15 分、質疑 10 分）となります。

② 発表方法

口頭での発表となります。パワーポイント等の映写目的のプロジェクターの使用が可能です。

③ 配布資料

- これまでの大会では、各自当日資料を印刷して持参し配布していただいておりましたが、今大会では、紙媒体での当日資料の配布を予定しておりません。
- 当日資料は、事前にデータを提出・登録していただくことを予定しております。そのため、参加者が必要な分科会発表者資料を各自で印刷していただくことを想定しております。
- 当日配布資料の内容については、日本地域福祉学会倫理規程に基づき、研究対象とした個人の特定ができないようにしてください。写真についても発表内容を伝えるために本当に必要なものであるかを判断し、使用する場合は本人の了解をとり、その旨を明示するようにしてください。倫理的に問題があると判断された場合、コメントーターが当日の発表を中止する場合があります。なお、万が一の倫理的な問題によるトラブルが生じた場合、発表者の責任となり、学会はその責を負えません。

（日本地域福祉学会研究倫理規程アドレス：http://jracd.jp/file/9_rinri_kitei.pdf）

- 資料として動画は使用できません。

- ・当日資料等の取り扱いについては、後日、大会ホームページにて詳細をご説明いたしますので、各自ご確認をお願いいたします。

(2) ポスター発表

- ① 希望者は、「自由研究発表申込書」の「ポスター発表」欄にチェックしてください。
- ② 大会ホームページに掲載するため、ポスター発表者も「自由研究発表レジュメ」（様式参照）が必要となります。所定の期日までに大会ホームページから申請してください。
- ③ ポスター本体は、6月21日（日）8時30分までにポスター発表会場に持参してください。

5 前日企画 6月19日（金）13:30～16:30

【テーマ】岩手における『地域の暮らしを支える』実践をたどる

【日 時】2026年6月19日（金）13:30～16:30 ※視察先によって変更あり

【参加費】3,000円 ※視察先によって飲食費が別途発生することがあります

【視察先】

◆盛岡市社会福祉協議会：重層的支援体制整備事業における多機能な居場所めぐり（盛岡市）10名程度

盛岡市社会福祉協議会においては、重層的支援体制整備事業のもとで進められている居場所づくりの実践を通して、分野横断的な支援と住民参加がどのように結びついているのかを活動を視察する。
『盛岡市社会福祉協議会』事業説明⇒『Book and Bookenergy in Morioka』本の仕分け体験
⇒『すみよし じょうほうカフェ（元会計事務所）』見学⇒『みんなのいばしょ@居郷留（元喫茶店）』見学、参加者との交流（コーヒー・お菓子付）
大型タクシーで移動（参加費に含む）

◆宮古市社会福祉協議会：「宮古市社協における復興支援の取り組み」（宮古市）10名程度

東日本大震災後の支援がどのように地域福祉実践として引き継がれ、現在の取り組みに結びついてきたのかを学ぶ機会とする。あわせて、市災害資料伝承館や防波堤を見学し、災害の経験と教訓を学び、宮古市社会福祉協議会における復興支援の取り組みをとおして、地域福祉の視点から共有する。
『宮古市災害資料伝承館』見学→『田老の防波堤』見学（学ぶ防災）→『宮古市社会福祉議会』事業説明
大型タクシーで移動（参加費に含む）

◆高松第三行政区ふるさと地域協議会：「農村RM0の取り組み」（花巻市）10名程度

農村RM0や農福連携の取り組みを通じて、地域課題に住民主体で対応する実践が展開されています。福祉農園を核とした交流や生活支援の仕組みづくり、多様な主体の関係者が連携をとおして、「農村版地域包括ケア」の展開と、持続可能な地域づくりのあり方を現地の実践から学びます。

新花巻駅⇒『平良木公民館』事業説明⇒『福祉農園』（見学）

大型タクシーで移動（参加費に含む）

6 学会ランチサロン

目的：お昼の時間を活用し、夜の情報交換会に参加しにくい人を含め、大会参加者が相互に知り合い、気軽に情報交換や意見交換ができる場を作る

対象：次のようなことを感じている人なら、非学会員も含め、参加申込者誰でも

夜の情報交換会には参加できない、学会に参加して話を聞くだけでなく感想等を話し合いたいなど

日時：2026年6月20日（土） 12:30～13:30

（大会1日目の午前のプログラム終了後、午後のプログラム前まで）

場所：岩手県立大学（共通棟B 4階）協働学修室 ※変更の可能性あり

定員：先着30名（当日空きがあれば参加可）

昼食：各自用意

❖スペシャル・トークライブ

日時：2026年6月21日（日） 12:15～13:25

大会2日目昼食時に学会名誉会員によるトークライブを開催します。

進行・登壇者：調整中（詳細については、ホームページにてお知らせします）

会場：岩手県立大学（共通棟B 4階）協働学修室

7 大会参加の申し込み

1. 申込方法

大会専用ホームページからお申し込みください。

申込受付完了後、確認メールが送られます。1週間経ってもメールが届かない場合は、名鉄観光サービス株式会社盛岡支店にお問い合わせください。

なお、団体会員の場合も、参加申し込みは個人単位で行ってください。

2. 申込期間

申込締め切り 2026年5月14日（木）24時まで

入金締め切り 2026年6月3日（月）締切

3. 参加費

会員事前申込み（団体会員を含む）：8,000円 会員当日申込み・非会員：10,000円

大学院生：4,000円 学部学生：1,000円 ※要旨集のみ3,000円

※申込み後の返金には一切応じられませんので、あらかじめご了承ください。

4. 情報交換会

・会場：岩手県立大学滝沢キャンパス学生食堂（学生ホール棟3階）

・情報交換会参加費：6,000円

・1日目の18時より情報交換会の開催を予定しています。参加を希望される方は併せてお申し込みください。

・感染対策を行ったうえで実施しますが、状況によっては中止となる場合がありますので、あらかじめご了承願います。

5. お弁当

- ・内容等 お弁当（お茶付）1,200円税込（予定）
 - ・設定日等 ①6月20日（土）1,200円税込（予定）
②6月21日（日）1,200円税込（予定）
- ※大会実行委員会の指定する場所でお召し上がりください。

6. シャトルバス

- ・設定日時・行先

- ①6月20日（土）20時出発
・岩手県立大学から盛岡駅（西口） 2,200円税込（予定）
- ②6月21日（日）8時出発
・盛岡駅（西口）から岩手県立大学 2,200円税込（予定）
- ③6月21日（日）16時出発
・岩手県立大学から盛岡駅（西口） 2,200円税込（予定）
- ④6月21日（日）16時出発
・岩手県立大学から花巻空港 3,300円税込（予定）

※申込状況によって、最低人員20名を下回った場合は、運航停止の場合はございます。

7. 情報保障

手話通訳の配置や、聴覚障害者向け音声文字変換ソフトを活用し情報保障に配慮します。（分科会については個別に対応します。）

8. 託児

両日の会場ともに託児のご用意があります。（利用料は利用者の負担になります。）

- ・設定日等 ①6月20日・21日 岩手県立大学滝沢キャンパス内
- ・その他 事前申し込み制です。ご希望の方は大会参加とあわせお申し込みください。

8 会場アクセス

岩手県立大学 滝沢キャンパス

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52

※公共交通機関

バス：JR「盛岡駅」東口から岩手県立大学行きの路線バス約30分。

鉄道：IGRいわて銀河鉄道「滝沢駅」から徒歩約15分

9 問い合わせ先

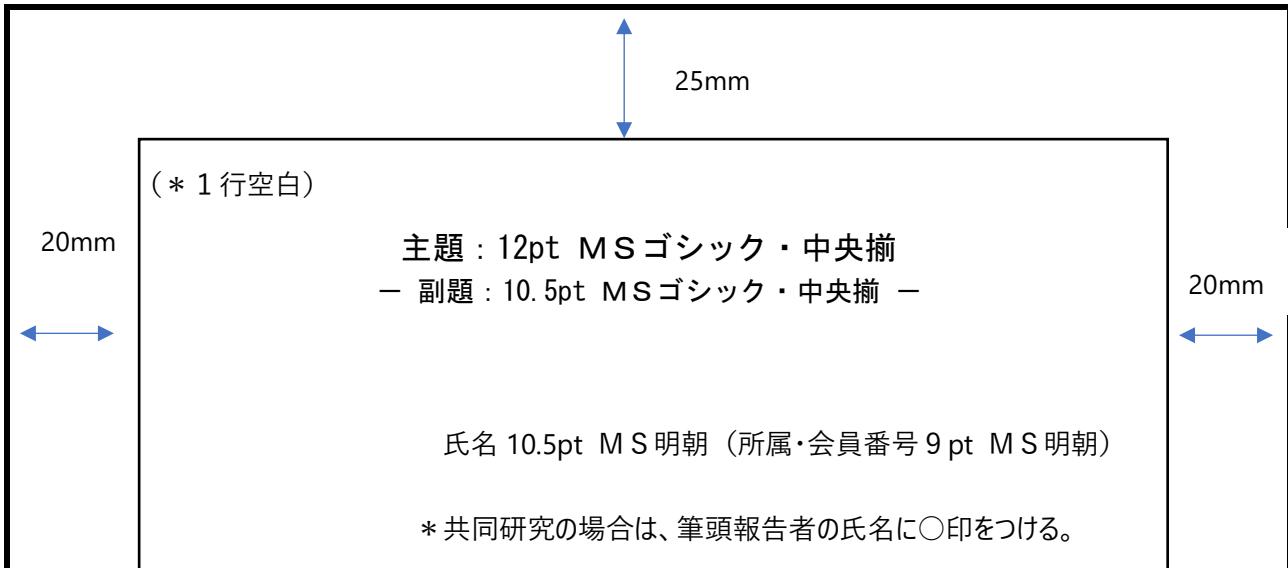
【自由研究発表及び大会運営に関すること】

岩手大会実行委員会事務局（岩手県立大学）
〒020-0693 岩手県滝沢市巣子 152-52
MAIL : jracd2026iwate@gmail.com

【大会参加申込み等に関すること】

名鉄観光サービス株式会社盛岡支店（担当：佐々木・大川）
〒020-0022 岩手県盛岡市大通3-3-10（七十七日生盛岡ビル9階）
TEL : 019-654-1058 FAX : 019-654-1044
MAIL : chiikifukushi-2026@mwt.co.jp

【添付様式 1】自由研究発表原稿様式（A4 サイズ）



【※団体会員の場合】

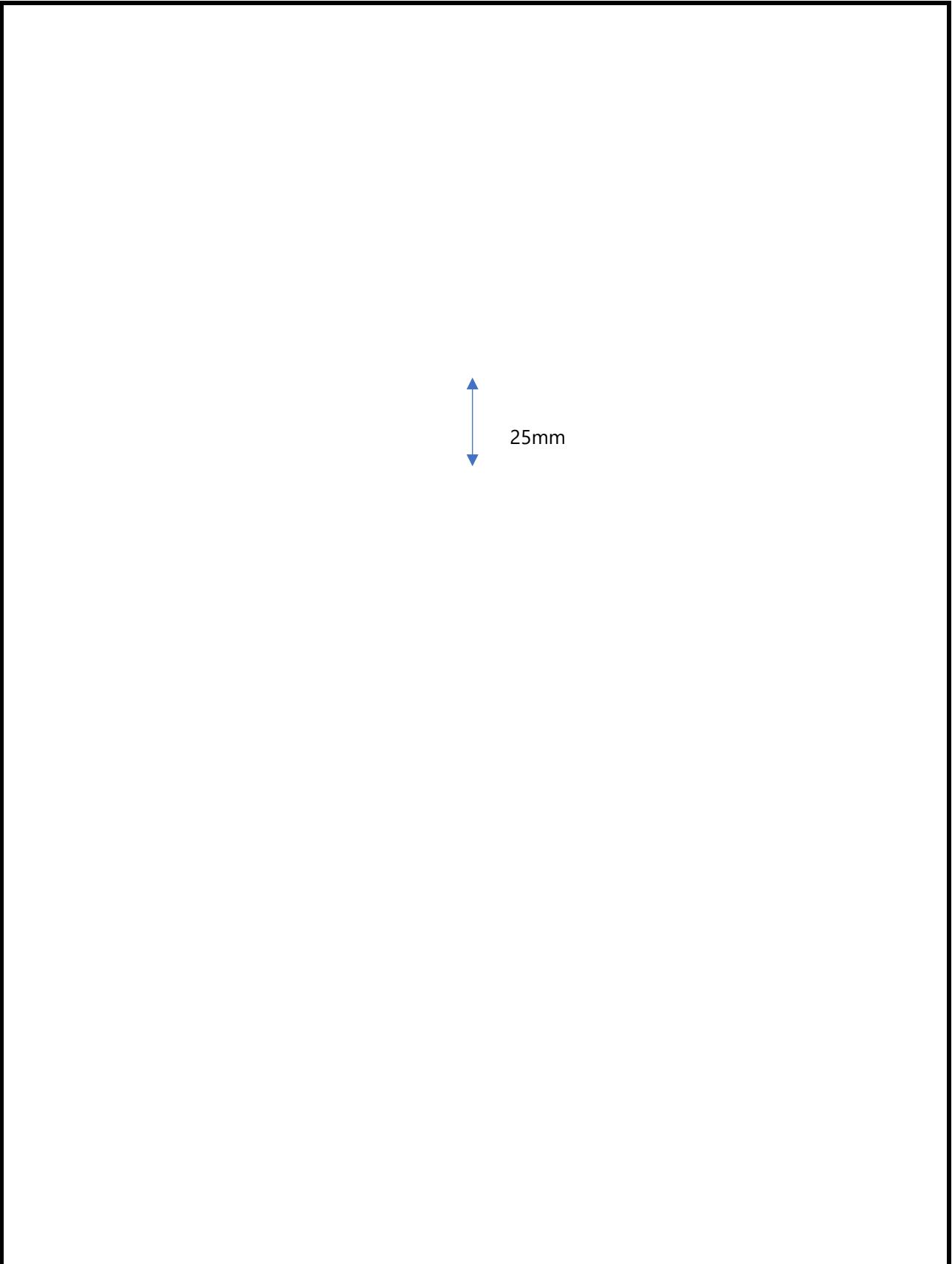
団体名 10.5pt MS 明朝 (発表責任者氏名・会員番号 9 pt MS 明朝)

1. 研究目的 (見出し 11pt MS ゴシック、本文 10.5pt MS 明朝)

2. 研究の方法 (見出し 11pt MS ゴシック、本文 10.5pt MS 明朝)

3. 倫理的配慮 (見出し 11pt MS ゴシック、本文 10.5pt MS 明朝)

4. 結果・考察 (見出し 11pt MS ゴシック、本文 10.5pt MS 明朝)



【添付様式 2】日本地域福祉学会自由研究発表エントリーチェックリスト

会員番号		氏名 (団体会員の場合 は団体名)	
------	--	-------------------------	--

以下の内容に間違いがないことを確認した上で、研究倫理に配慮した報告を行います。

No.	チェック項目	チェック欄
1	発表要旨が指定の書式（文字の大きさ・字体・余白等）で作成されている。	
2	研究の目的・方法・倫理的配慮・結果・考察が記載されている。	
3	共同研究の場合、筆頭報告者に○印がついている。※団体会員は非該当	
4	共同研究の場合、全員が学会員である（入会申請済でも可）※団体会員は非該当	
5	当事者あるいは責任ある立場の者から研究協力の同意を得ている。	
6	当事者あるいは責任ある立場の者から学会報告の承諾を得ている。	
7	文献や資料を引用している場合、出典が明記されている。	
8	差別的表現や社会的に不適切な用語が使用されていない。	
9	発表内容は他の学術学会での発表と多重報告ではない。	
10	当日配付予定の資料や掲示物等においても研究倫理に配慮する（発表時に再確認する）。	
11	倫理的配慮の内容を発表要旨に記載しきれない場合、以下に記載してください。	
12	その他、発表に関して特記事項がある場合、以下に記載してください。	

